

7. 各大学提供科目

・ 対面授業科目

対面授業				07001	
睡眠学			保野 孝弘		
Somnology					
1～4 年次	2 単位	秋学期	1 コマ	定員 15 名	
<p><b>【授業の目的】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒトの睡眠・覚醒リズム及び睡眠行動の基礎的な特徴を理解する。</li> <li>2. 快適な睡眠を得るための科学的方法を理解する。</li> <li>3. 高齢者、心身障害者や、医療従事者（夜勤など）の睡眠の特徴や問題点を理解し、その対処方法を知る。</li> </ol>					
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 睡眠研究の歴史と研究法</li> <li>2. 睡眠の解剖と生理</li> <li>3. 睡眠と夢見</li> <li>4. 睡眠と学習・記憶</li> <li>5. 睡眠の個人差</li> <li>6. 睡眠と生体リズムの発達</li> <li>7. 眠気と昼寝</li> <li>8. 睡眠障害</li> <li>9. 子どもの睡眠とその問題</li> <li>10. 中・高齢者の睡眠とその問題</li> <li>11. 心身障害と睡眠</li> <li>12. 労働現場の睡眠健康(シフトワーク)</li> <li>13. 快眠法と睡眠健康教育</li> <li>14. 寝室・寝具デザインと睡眠</li> <li>15. 自分、家族、愛する人の睡眠を守るために</li> </ol>					
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>各講義内容に合わせて、講義中に紹介します。</p>					
<p><b>【参考図書】</b></p> <p>講義中に随時、参考図書や資料などを紹介します。皆さんにとって、わかりやすい内容の本などをご紹介します。</p>					
<p><b>【成績評価の方法】</b></p> <p>[定期試験] 70%（語句選択式(50%)と記述式(50%)です。）</p> <p>[受講態度・その他] 30%（リアクション・ペーパーの提出、及びその内容を出席点とします。）</p> <p>[備考]毎回のリアクション・ペーパー、及び定期試験の結果を総合して評価します。原則として、受験資格は、大学の規程に従います。なお、遅刻は、原則として1回につき3点、総合点から減点します。再試験は行いません。</p>					

7. 各大学提供科目

対面授業				07002	
健康科学論			文谷 知明		
Health Sciences					
1～4年次	2単位	春学期	1コマ	定員 15名	
<p><b>【授業の目的】</b>          20歳前後の青年が、健康長寿を生きるうえで、自らの身体について正しく理解し、健康的な生活に必要な知識を習得する。さらに、健康を求めるために、意識・意欲の向上をめざす。</p>					
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動・スポーツは身体に悪いのか</li> <li>2. 肥満度からヤセ型・肥満型を判定する</li> <li>3. 体脂肪率からヤセ・肥満を判定する</li> <li>4. 理想的なダイエット法とは</li> <li>5. ウォーキングとジョギングの違いとは</li> <li>6. 運動で消費するエネルギー量は</li> <li>7. 暑さを克服するための水分補給</li> <li>8. 無理のないダイエット法を考える</li> <li>9. 部分ヤセは可能なのか</li> <li>10. 身体を丈夫にするための栄養と食事</li> <li>11. スタミナをつけるための栄養と食事</li> <li>12. スタミナ切れしないための栄養と食事</li> <li>13. 身体の柔軟性を高めるストレッチングとは</li> <li>14. 運動後に起こる筋肉痛の予防と対策</li> <li>15. 腰痛・肩こりに有効な運動とは</li> </ol>					
<p><b>【テキスト】</b>          毎回プリントを配布します。</p>					
<p><b>【参考図書】</b>          なし。</p>					
<p><b>【成績評価の方法】</b>          [定期試験] 80%          [受講態度(出席状況を含む)・その他] 20%          [備考] 無断の遅刻・早退は3回で欠席1回とみなす。</p>					

7. 各大学提供科目

対面授業科目				07003	
生命科学			福島 康弘		
Life Science					
1～4 年次	2 単位	秋学期	1 コマ	定員 15 名	
<p><b>【授業の目的】</b>          生命科学において非常に重要な分野のひとつであり、人が人らしくあるために重要な臓器である脳の機能についての包括的な理解を目的に授業をおこなう。</p>					
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳理解の歴史</li> <li>2. 脳の構成</li> <li>3. 脳の働きを生み出す仕組み(1) 静止膜電位と活動電位</li> <li>4. 脳の働きを生み出す仕組み(2) シナプスでの情報処理</li> <li>5. 脳と感覚(1) 体性感覚</li> <li>6. 脳と感覚(2) 視覚と聴覚</li> <li>7. 脳と感覚(3) 嗅覚と味覚</li> <li>8. 脳と運動(1) 運動情報の伝わり方</li> <li>9. 脳と運動(2) 運動をなめらかにする仕組み</li> <li>10. 脳の自動制御</li> <li>11. 高次脳機能(1) 情動</li> <li>12. 高次脳機能(2) 言語</li> <li>13. 高次脳機能(3) 記憶</li> <li>14. 脳の疾患</li> <li>15. 脳と心</li> </ol>					
<p><b>【テキスト】</b>          工藤 佳久「もっとよくわかる！脳神経科学」羊土社(2013)</p>					
<p><b>【参考図書】</b>          宮川 博義・井上 雅司「ニューロンの生物物理 第2版」丸善出版(2013)          塚田 稔「芸術脳の科学」講談社(2015)</p>					
<p><b>【成績評価の方法】</b>          [定期試験] 50% 講義内容の全般的理解を確認するため問題を提出する。          [レポート] 45% 毎回、授業の内容に関する小レポートを提出する。          [受講態度・その他] 5% 欠席・遅刻、私語等を減点の対象とする。</p>					

7. 各大学提供科目

対面授業			07004	
ヒューマンセクシャリティー論			杉浦 絹子 他	
Human Sexuality				
1～4 年次	2 単位	秋学期	1 コマ	定員 15 名
<p><b>【授業の目的】</b>          身体および性と生殖について医学的/科学的観点から捉えるとともに、「性」を通して見える世界に多方面からアプローチし、実社会の動向を踏まえてジェンダー、セクシュアリティに関わる課題の解決方法について考察する。</p>				
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 日本の少子化とその背景 (杉浦)</li> <li>2. 文化とジェンダー・セクシャリティー (飯田)</li> <li>3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツとセクシュアル・ライツ(避妊と人工妊娠中絶を含む) (原田)</li> <li>4. 男性の身体・性 (永井)</li> <li>5. 女性の身体・性 (滝川)</li> <li>6. 性の多様性 (谷野)</li> <li>7. 性同一性障害と日本社会の現状 (杉浦)</li> <li>8. 今日の日本における性感染症の現状(赤松)</li> <li>9. 増え続ける HIV 感染症を考える (和田)</li> <li>10. 性暴力、性犯罪、性的虐待 (谷野)</li> <li>11. 不妊と生殖補助医療 (秦)</li> <li>12. 生殖ビジネスと生命倫理 (杉浦)</li> <li>13. 子どもの権利擁護の視点からみた望まない妊娠への対応と特別養子縁組制度 (谷野)</li> <li>14. 性教育の変遷、現状と課題 (赤松)</li> <li>15. 障がい者の性と特別支援学校での性教育 まとめ (杉浦)</li> </ol>				
<p><b>【テキスト】</b>          なし</p>				
<p><b>【参考図書】</b>          講義の中で紹介</p>				
<p><b>【成績評価の方法】</b>          定期試験:80%          受講態度(出席状況を含む)・その他:20%(毎回ミニリアクションペーパーを課します)          評価方法コメント:積極的に学ぶ姿勢で受講してください。受講マナーが悪い場合には、退室させる場合もあります。20 分以上の遅刻、20 分以上の離席は欠席とします。</p>				

## 7. 各大学提供科目

対面授業				07005	
健康と音楽			田中 順子		
Health and Music					
1～4 年次	2 単位	秋学期	1 コマ	定員 15 名	
<b>【授業の目的】</b> 音楽療法の基礎と各分野での音楽療法について知識を深め、さらに、自分が進む分野での応用を考えることができる。また、実際の音楽体験を通して音楽の持つ力を感じ、人と音楽と健康との関係と影響を考えることができる。					
<b>【授業内容】</b> 1. これまでの音楽療法 2. 健康と音楽の関係をめぐって -「ミュージッキング」から考える- 3. 日本の歌と音楽活動 -歴史・文化・心の伝承- 4. 高齢者と音楽活動 5. 音楽で育つ -障がい児と音楽あそび- 6. 集団における音楽活動 7. 音楽活動で必要なちょっとした(でも重要な)音楽技術 8. こころの病と音楽活動 9. 生きるよろこび -緩和ケアと音楽活動- 10. コミュニティと音楽活動 11. ミュージシャンの音楽問題 12. あなたにもできる! 音楽活動のらくらく評価 13. 失語症・失音楽症と音楽活動 14. 障害者への音楽活動 -音楽を通じての社会参加- 15. これからの音楽活動					
<b>【テキスト】</b> 田中 順子編著:『臨床が変わる! イラストでわかる 目からウロコの音楽活動』三輪書店(2014)					
<b>【参考図書】</b> なし					
<b>【成績評価の方法】</b> 受講態度(出席状況を含む)・その他 : 100%(リアクションペーパーの提出をもって出席とする。) 評価方法コメント : 10 分以上の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回と見なす。					